

# 青ネギ（土耕）

## 特徴

発芽の適温は15～25℃である。10℃の気温で発芽率は低下し、苗立枯病が発生しやすく、苗数の確保が困難となる。生育適温は15～20℃である。13℃以下の低温での生育速度は遅く定植から収穫するまでの日数は70日以上も必要となる。

土壌pHは6～7が生育が良く、また根が浅く酸素要求量が強いので堆肥等有機物を多く含んだ土壌で生育がよい。

## 作型と品種

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な品種
冬春まき		□	○	◎	○	◎	□							博多くろねぎ
春まき					□	○	◎	□						
秋まき	□		◎		□				□	◎				

## 作り方

### 1.育苗

苗床の面積は、本ば1aに対し15㎡が必要である。種まきの10日前に基肥を施し耕うんしておく。大きな土の塊は取り除き、種をまく。種は1aあたり6～10mlを均一に薄まきする。

覆土はバーク堆肥の細粒のものを使用し、苦土石灰の白色が見えない程度の深さにする。種まき後、コモで被覆するか、敷きわらをして十分に水をやって発芽を揃える。

夏には黒の寒冷紗を水平張りにし、南側と西陽の直射光線を遮り地温を下げる。

水やりは、発芽までは十分に行う。発芽後から本葉2.5枚までは控え、3葉期になれば通常に戻す。（苗立枯病対策）

発芽が揃えば、コモや敷きわらを夕方に取り除く。

敷きわらかコモを除いた後にふるった土で被覆したバーク堆肥がみえなくなる程度に土入れを行う。

スリップスやハモグリバエの予防をする。

苗の草丈が20cmとなれば、フォークで苗を浮かし、苗の大きさを選別し定植する。

### 2.定植

ほ場の準備

通気性や排水性を高めるため堆肥などの有機物を多く施す。

定植

草丈20～25cm、根本の径5～6mmの良い苗を定植する。不良苗との混植は行わない。

条間40cm、株間は植溝の長さに1mあたり100本程度の条植えにするか、5cm間隔の4～5本の株植えにする。

### 3.水やり

水やりをする時間帯は午前9時までとし、葉面の水滴は午後1時～2時頃には乾燥していることがべと病の発病抑制につながる。

水やりの回数は、春秋期3～4日間隔、夏期1日間隔、冬期7日間隔を目標とする。また、ハウス内の湿度を下げるため、1回に与える水の量を多めにし間隔をあげ、サイド換気を行う。生育適温は15～20℃で冬期は最低5℃以上を目標に、二重カーテンなどで保温する。

ハウスの換気作業は午前8～9時頃には換気をし、午後4時頃には密閉し保温する。

高温期の夏期は全開して通風をよくする。

## 病害虫の防除

主な病害虫としては、べと病、さび病、白色疫病、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、ヨトウムシ類、葉枯症などがある。生食することのできる野菜なので、できる限り耕種的防除で防除することが望ましい。

## 収穫

長さ50cm程度になれば必要に応じて収穫する。収穫は涼しいうちに行い、適期を逃がさないよう順次収穫する。